

牧丘町埋蔵文化財調査報告書 第2輯

# 古宿道上遺跡II

1994

牧丘町教育委員会

## 古宿道上遺跡Ⅱ発掘調査報告にあたって

この報告書は、平成4年の古宿道上遺跡の調査結果を報告するものです。

今回の発掘では、地層の攪乱が激しく、前回の発掘調査を上回る結果を残せず終了しましたが、発掘された土器の破片や前回の発掘調査の結果と併せて考えて、その地に縄文時代中期後半から後期にかけて縄文人が生活の場を設け、それに引き続き平安時代の人々が生活していたことが確認できました。

「古宿」という集落名もその辺りを物語るものと思われますので、この地に町営住宅の建設も意義があるとおもいます。

尚、今後発掘品の整理・検討を重ね地域が持つ文化的価値・歴史的推移等研究を続けていきたいと思います。

平成6年3月

牧丘町教育委員会

教育長 武井 茂喜

## 例 言

1. 本報告書は、牧丘町営古宿住宅建設に伴って発掘調査された山梨県東山梨郡牧丘町西保中古宿道上遺跡の発掘調査報告書である。
2. 上記開発事業区域の発掘調査は、牧丘町教育委員会が実施した。
3. 本書における出土品及び記録図面及び写真は、牧丘町教育委員会が保管している。
4. 本報告書の執筆・編集・写真撮影は、岡さをり・牧丘町教育委員会社会教育係主事 大崎文裕が行なった。
5. 遺物の実測は、丸山つぎ子・石田咲子・岡さをり・山梨学院大学考古学研究会 堀内博雄、遺物及び遺構のトレースは、岡・堀内・大崎が行なった。
6. 報告書の整理作業は、1993年9月1日から1994年3月31日まで行なわれた。
7. 発掘調査から報告書作成に至るまで下記の方々からご教示・ご協力をいただいた。記して謝意を表する次第である。(敬称略)

山梨県教育委員会：小野正文・保阪康夫

山梨県埋蔵文化財センター：長沢宏昌

山梨学院大学：十菱駿武

山梨県考古学協会：三沢孝昭

塩山市教育委員会：飯島泉

山梨市教育委員会：三沢達也

8. 出土品整理参加者

石田咲子・堀内博雄（山梨市）・丸山つぎ子（一宮町）・岡さをり

岸本恒治・鶴田光江・藤原登志美・藤原六月・藤原幸子（牧丘町）

# 目次

序文	i
例言	ii
第1章 調査状況	
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査組織	1
第2章 遺跡の位置と周辺環境	2
第3章 古宿道上遺跡	
第1節 調査方法	4
第2節 層序	4
第3節 遺構と遺物	
1. 概要	7
2. 出土遺物	7
第4章 まとめ	30
・参考文献	30

## 插图目次

第1图	牧丘町位置图	3	第11图	出土土器 (No. 4)	13
第2图	遺跡周辺图	3	第12图	出土土器 (No. 5)	14
第3图	遺跡全体图	5	第13图	出土土器 (No. 6)	15
第4图	土層图	6	第14图	出土土器 (No. 7)	16
第5图	出土石器 (No. 1)	7	第15图	出土土器 (No. 8)	17
第6图	出土石器 (No. 2)	8	第16图	出土土器 (No. 9)	18
第7图	出土石器 (No. 3)	9	第17图	出土土器 (No. 10)	19
第8图	出土土器 (No. 1)	10	第18图	出土土器 (No. 11)	20
第9图	出土土器 (No. 2)	11	第19图	出土土器 (No. 12)	21
第10图	出土土器 (No. 3)	12			

## 图版目次

图版 1	調査風景	22	图版10	深鉢	23
图版 2	石棒	22	图版11	坏 (上)	23
图版 3	砥石	22	图版12	坏 (下)	23
图版 4	石鏃	22			
图版 5	石匙	22			
图版 6	土錘	23			
图版 7	深鉢	23			
图版 8	深鉢	23			
图版 9	銅代圧痕	23			

# 古宿道上遺跡Ⅱ

## 第1章 調査状況

### 第1節 調査に至る経過

1992年8月21日	文化庁に発掘通知を提出
1992年10月21日	発掘調査開始
1993年11月30日	発掘調査終了

### 第2節 調査組織

調査主体者	山梨県東山梨郡牧丘町教育委員会
事務局	武井 茂喜（教育長） 占明地 登吉（教育次長） 加々美 真人（総合会館館長） 谷山 大空（社会教育係長） 戸田 登志美（主任）
調査担当者	大崎 文裕
作業員	丸山 つぎ子・石田 咲子・鶴田 光江・平山 政英 吉原 恒夫・吉原 裕子 奥山 泰・大野 晃・川口 卓男・岡 謙吾 楠 太三夫（シルバー人材センター）

## 第2章 遺跡の位置と周辺の環境

牧丘町は、甲府盆地の東北方約17kmの地点に位置し、北は国師ヶ岳、奥千丈岳、大池峠を境に長野県、東は奥千丈岳、大鳥山を境に三富村と、西は乙女高原、帯那山を境に甲府市と、南は帯那山、向山を境に山梨市、東南は笛吹川を境に塩山市と接している。町の総面積101.85km<sup>2</sup>、人口6750人で、総面積の85%は、山林原野が占めている山村である。産業は、河川の河岸段丘や扇状地を利用し、ぶどう・りんごなどの果実が栽培されている。

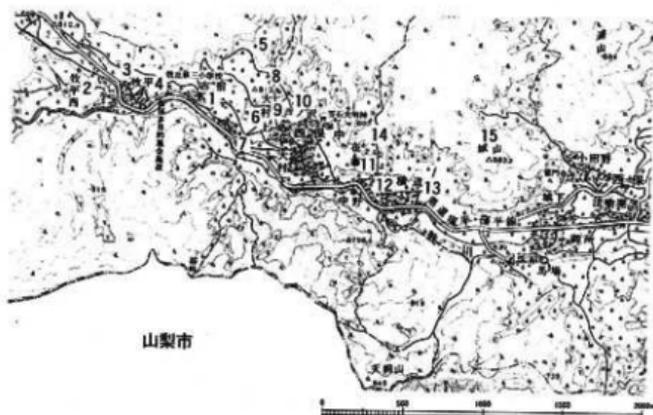
古宿道上遺跡のある古宿地区は、牧丘町の南西部に位置し、鼓川の河岸段丘上に発達した集落である。集落の南端には鼓川に沿って県道塩平窪平線が通っている。昔は、養蚕とコンニャク造りが、盛んなところであったが、現在では、ブドウ・リンゴを中心とした果樹栽培を主に行っている。

今回調査された古宿道上遺跡は、まず、昭和28年に西保公民館建設（現在町営古宿住宅駐車場付近）の際、石皿・凹石・黒曜石破片・土器片（諸磯式・加曾利E式・堀之内式・加曾利B式）が検出された。

続いて、昭和48年に牧丘町立西保保育所を建設するにあたって、同5月17日～27日にわたり調査されている。その時に縄文時代の遺物・遺構と平安時代遺物・遺構が発見された。縄文時代の遺物としては、井戸尻式または、加曾利式前半期～称名寺式並行期・堀之内式（中期末～後期初頭）の土器と石器（石棒破片・石斧・凹石・石皿破片・丸石）が検出された。平安時代の遺物としては、土師器片・須恵器片が数点検出された。遺構としては、縄文時代中期末の敷石住居と同後期初頭の敷石住居と平安時代のカマドが1基確認できた。このうち縄文時代後期初頭の敷石住居は、柄鏡型を呈しており、加工された石が、T字型に配されている。敷石住居の中央部には、炉と思われる石組が形成されており、その中より、埋壘が検出されている。この敷石住居は、現在町指定の文化財となり、保育所の下に保存され見学出来るようになっている。



第1圖 牧丘町位置圖



- |            |           |            |            |          |
|------------|-----------|------------|------------|----------|
| 1. 古宿道上遺跡  | 2. 上ノ原遺跡  | 3. 川東遺跡    | 4. 押手沢遺跡   | 5. 小林遺跡  |
| 6. 西破魔射場遺跡 | 7. 古西源寺遺跡 | 8. 奥破魔射場遺跡 | 9. 東破魔射場遺跡 | 10. 上平遺跡 |
| 11. 在華道西遺跡 | 12. 村ノ前遺跡 | 13. 井戸窪遺跡  | 14. 在華道西遺跡 | 15. 小田野城 |

第2圖 遺跡周辺圖 (1/25000)

## 第3章 遺物と遺構

### 第1節 調査方法

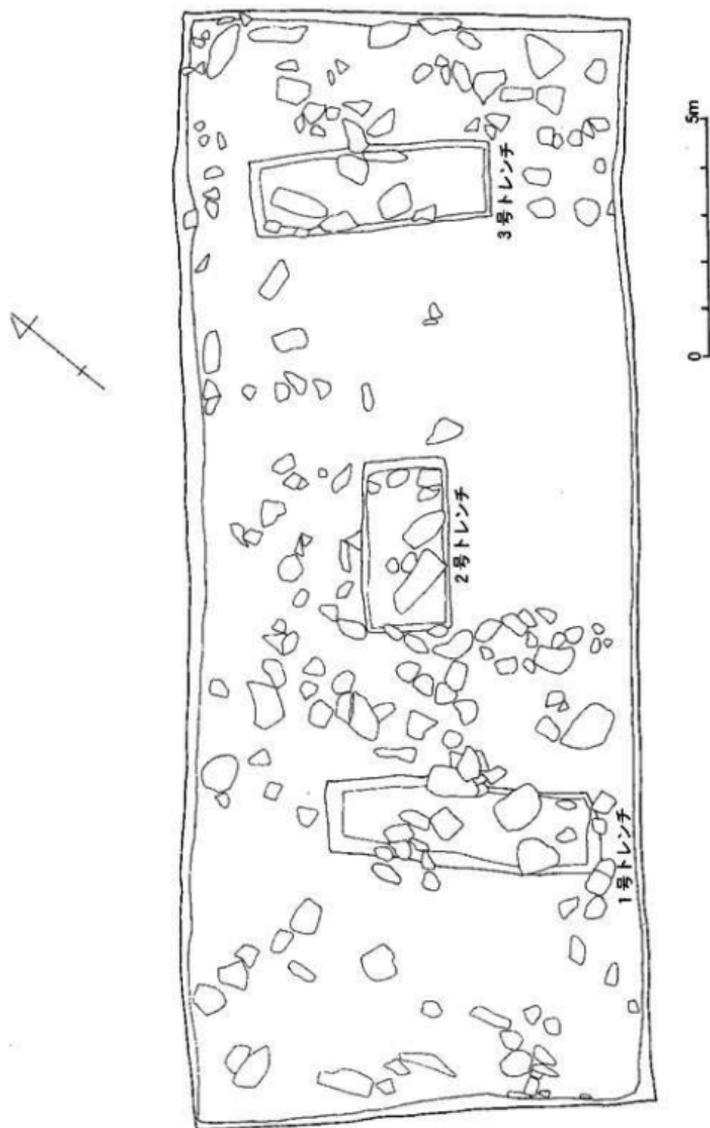
今回発掘した場所は、牧丘町西保中宇古宿1942番地-3で北側に町立西保保育所があり、東側に西保公民館があったところである。地形は、鼓川左岸上位河岸段丘面上にあり、標高約740mの地点で、すもも畑になっていたところである。

調査は、旧西保公民館跡地は外し、開発事業予定地を対象としたが、調査区東部には、水道管が埋設されているため安全性を考え1.5m埋設地より内側とし、西部・北部においても住宅や保育所の柵があり調査区より1.5m内側を調査区にした。調査面積は、約366㎡で3本のトレンチ（6m×8mの南北トレンチ2本と4m×6mの東西トレンチ1本の計3本）を入れて地層を確認し、遺物の地層による分布を調べ、昭和48年の西保保育所建設に伴う発掘の時の地層と比較して見た。その後重機で表土を排除し、人力で掘り下げていった。

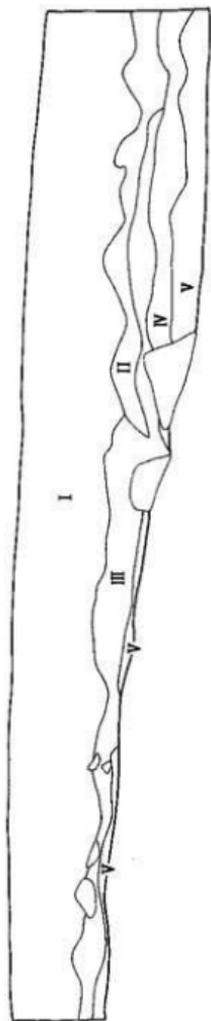
### 第2節 層 序

古宿道上遺跡の標準土層は、昭和48年の発掘のときは、Ⅰ～Ⅴ層に分類されており、Ⅰ層は、耕作上で50cm位の厚みがあり、Ⅱ層は暗褐色土で、Ⅲ層は褐色土Ⅳ層は、黒色上でⅤ層は、2次堆積ローム層であり厚さが10cm位であるという。Ⅱ～Ⅳは、角礫・円礫が入り混じり、Ⅰ層との境目も凹凸が激しいため同一層であると思われると書かれている。今回の調査では、第Ⅰ層は耕作土で、第Ⅱ層は褐色上で少量の炭化物や焼上粒を含む層で、第Ⅲ層は微量の炭化物を含む層で、第Ⅳ層は暗褐色土で、平安時代の遺物の包含層であると考えられるが所々攪乱されており、この層が確認出来る場所は少なかった。第Ⅴ層は褐色土で、縄文時代の包含層で大小様々の礫を含む層である。

- |     |                                |
|-----|--------------------------------|
| 第1層 | 第1次耕作土                         |
| 第2層 | 褐色土 (第2次耕作土) Hue7.5YR4/4       |
| 第3層 | 褐色土Hue7.5YR4/6                 |
| 第4層 | 暗褐色土Hue7.5YR3/4                |
| 第5層 | 褐色土Hue10YR4/6<br>(1992調査地標準土層) |



第3図 遺跡全体図 (1/50)

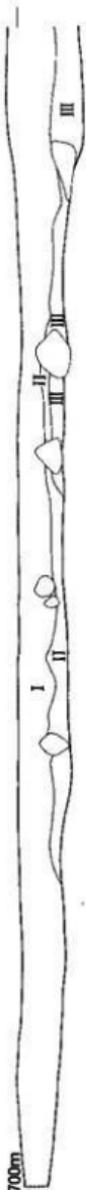


土層図

742.700m

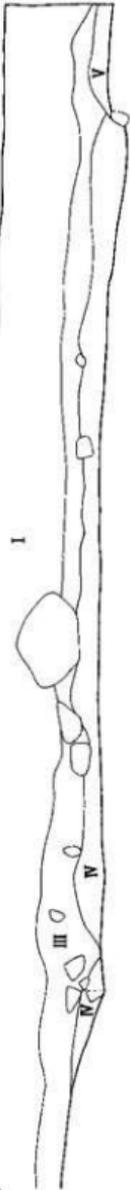
土層図①

742.700m



土層図②

742.700m



- 第1次耕作土  
 I. 褐色土 (7.5YR. 4/4) 少量の炭化物と煨土粒を含む。粘性やあり。しまり弱し。  
 II. 褐色土 (7.5YR. 4/6) 少量の炭化物を含む。粘性やあり。しまり弱し。  
 III. 暗褐色土 (7.5YR. 3/4) 粘性あり。しまり強し。  
 IV. 褐色土 (10YR. 4/6) 少量の礫を含む。粘性ややあり。しまり弱し。

1. 南北壁面  
 2. 東西壁面  
 3. 東西壁面

① (西側)

② (東側)

0 2 m

第4図 土層図

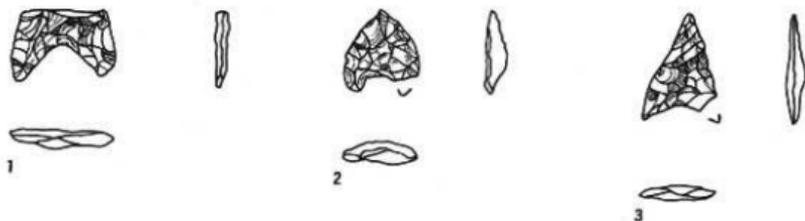
### 第3節 遺物と遺構

#### 1. 概要

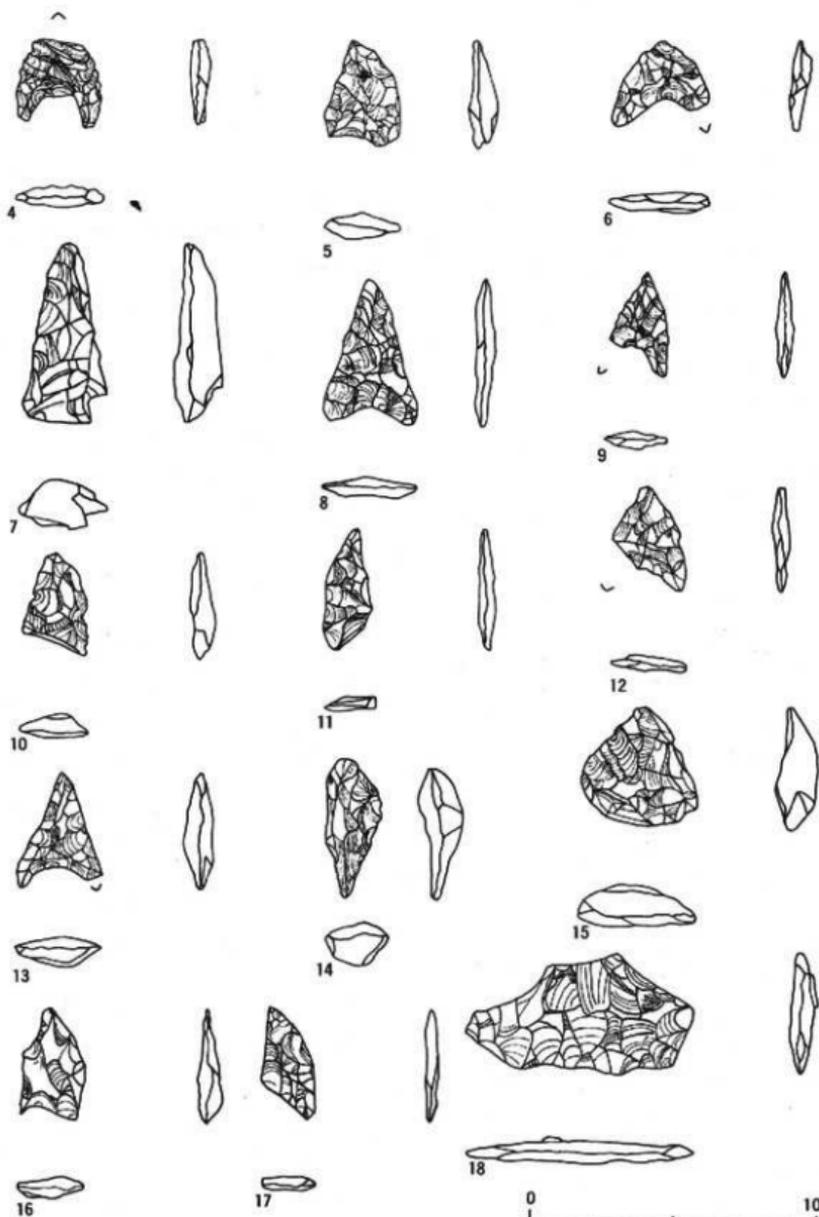
今回の発掘では、残念ながら遺構は検出出来なかった。遺構らしき土壌が3基検出されたが、それは、後から木の根の跡であることが判明した。それは前節でも書いたが、桑畑やすももの木の根で攪乱されており、遺物包含層であるⅣ～Ⅴ層がほとんど残っていなかったためである。地形的に見ると、南西方向から北東方向に向かって緩やかな傾斜になっている。遺物の出土状態は、ほぼ全面にわたり出土しているが、縄文時代の遺物は、調査区北東部に概ね集中して出土しており平安時代の遺物は、概ね調査区中央やや東寄りに出土した。

#### 2. 遺物について

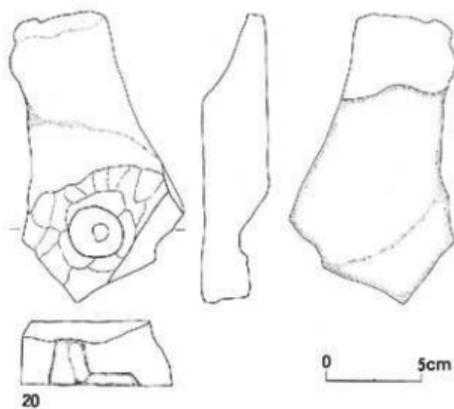
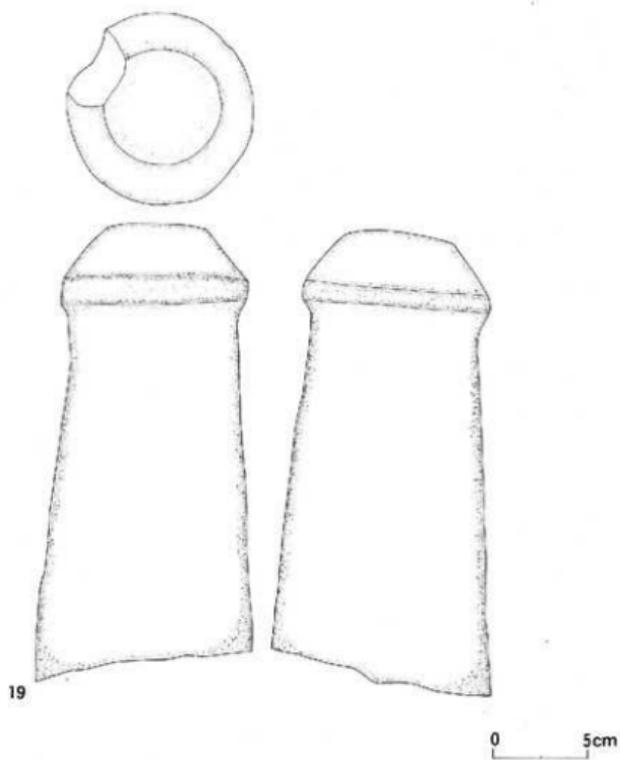
今回の調査では、縄文時代・平安時代の遺物が検出された。縄文時代に関しては、前回の調査と同じように主に中期～後期の土器（曾利～称名寺期）が見つかっている。石器は、石鎌・石匙・石棒等が発見されている。（図石器8～20）平安時代に関しては、底部・副部がヘラで調整されている（図77～78㉓）



出土石器(1)



出土石器(2)



出土石器(3)



出土土器(1)



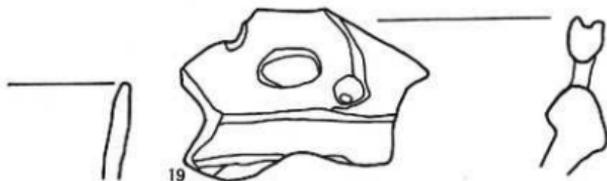
16



17



18



19



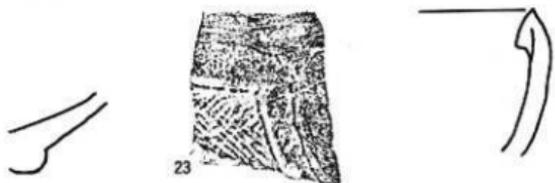
20



21



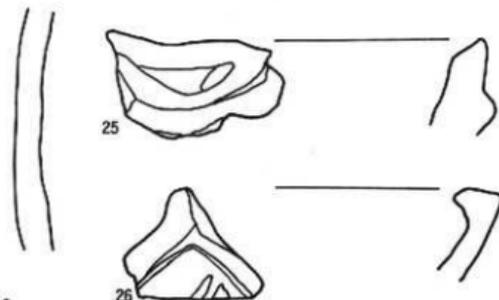
22



23



24



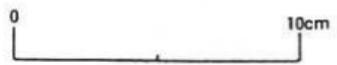
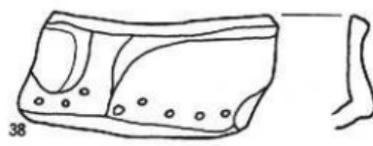
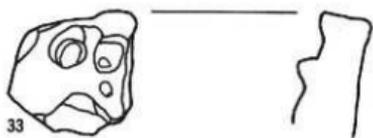
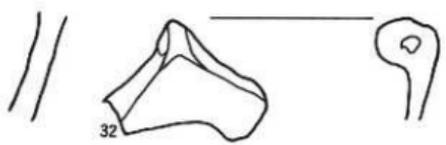
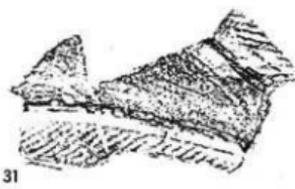
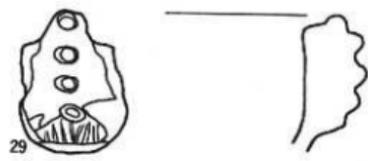
25



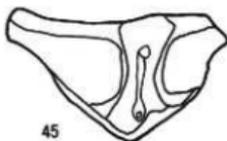
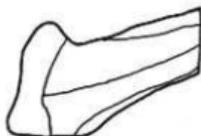
26



出土土器(2)



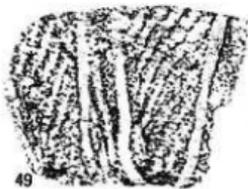
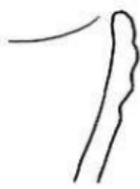
出土土器(3)



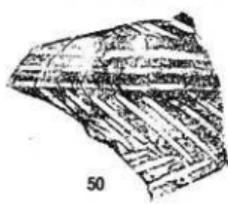
出土土器(4)



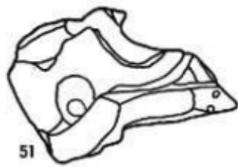
48



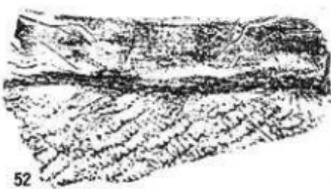
49



50



51



52



出土土器(5)



53



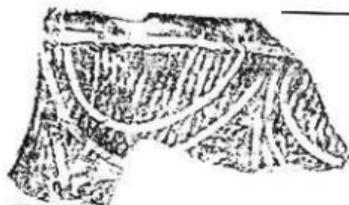
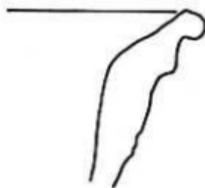
54



55



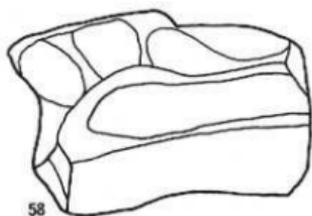
56



57



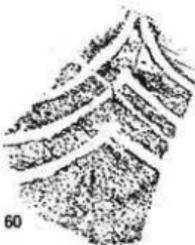
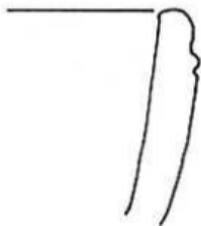
出土土器(6)



58



59



60



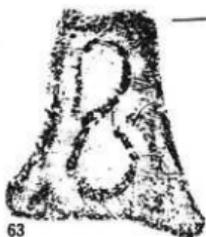
61



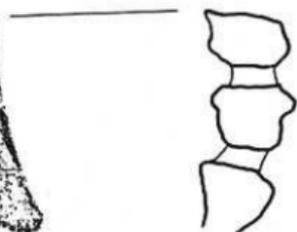
出土土器(7)



62



63



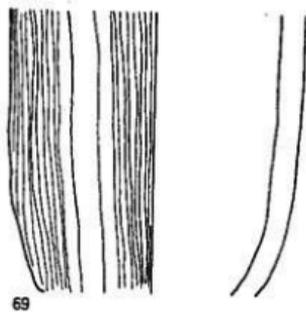
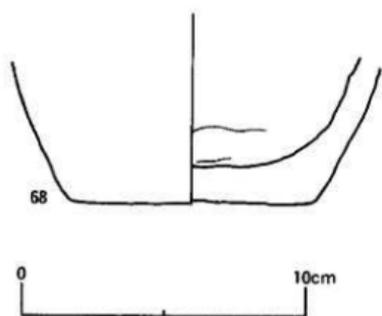
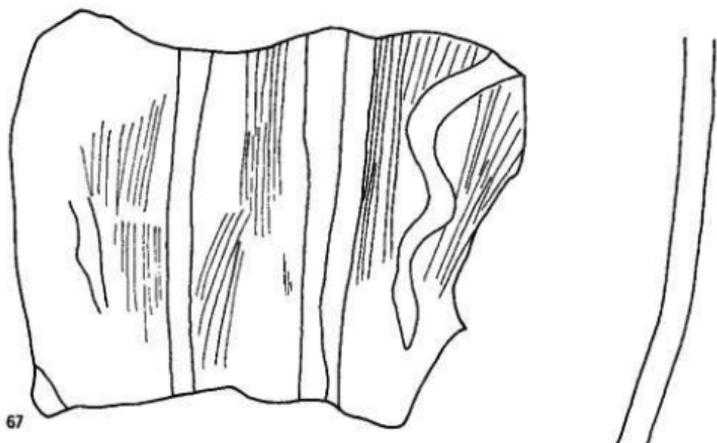
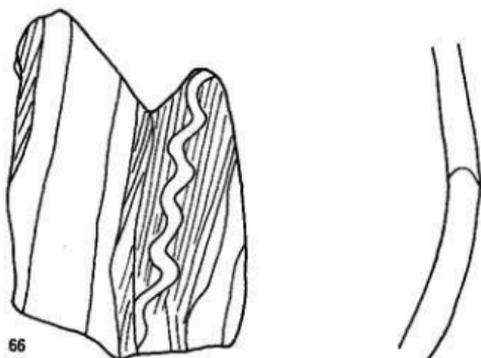
64



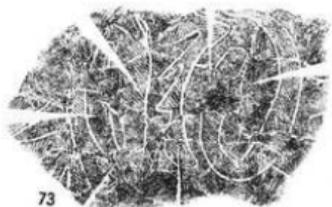
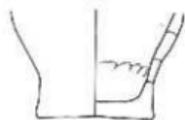
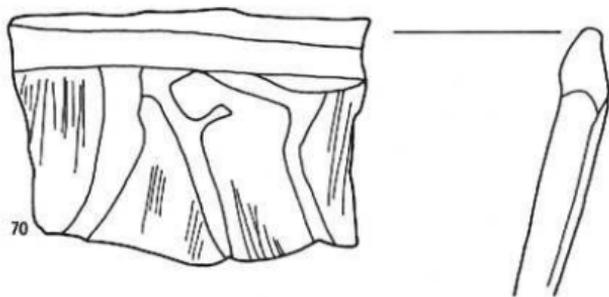
65



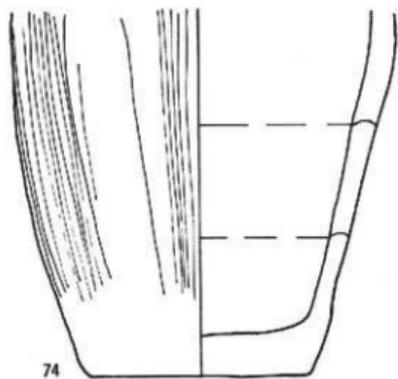
出土土器(8)



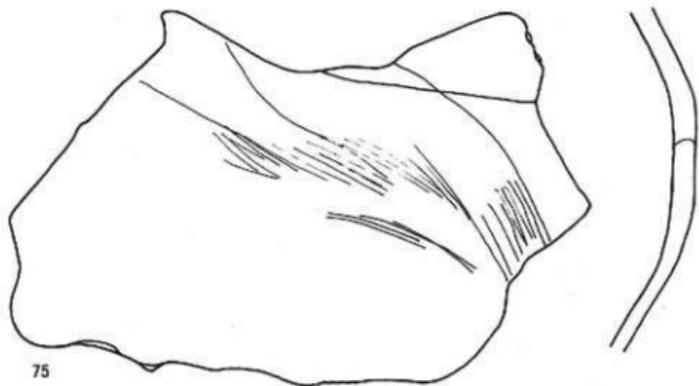
出土土器(9)



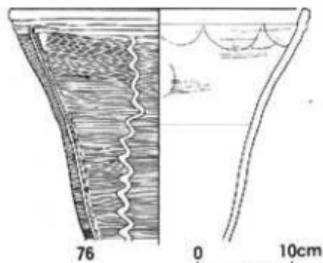
出土土器(10)



74



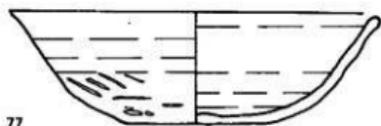
75



76



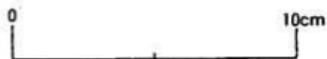
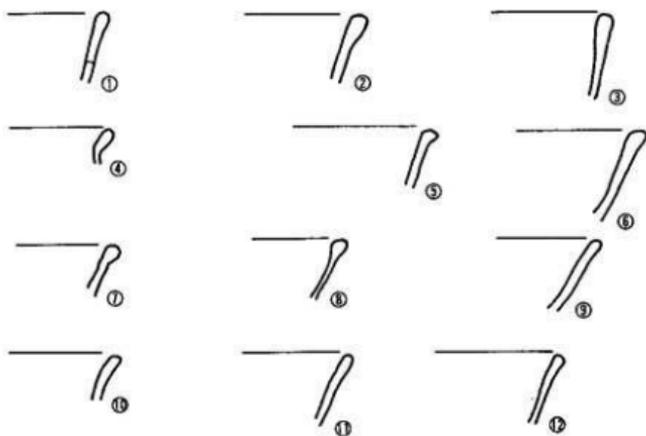
出土土器(11)



77



78



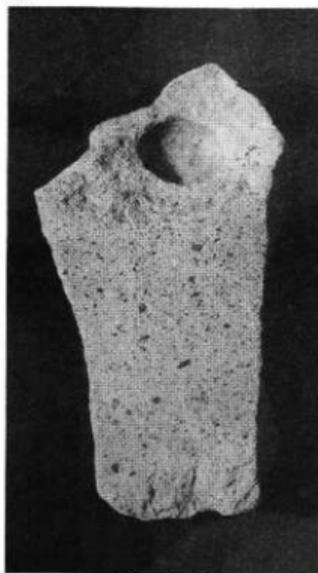
出土土器(12)



図版1 調査風景



図版2 石 棒



図版3 砥 石



図版4 石 鏃



図版5 石 匙



图版6 土鍾



图版7 深鉢



图版8 深鉢



图版9 網代压痕



图版10 深鉢



图版11 环(上)



图版12 环(下)

番号	冊	名称	縦 × 横 × 厚 [ mm ]	備考
1	4	石 鏡	13 × 18 × 3.5	
2	5		(15) × 13 × 4	
3	6	石 鏡	(19.5) × (13) × 3	
4			(15) × 15 × 4	1号トレンヂ
5			19 × 13 × 5	1号トレンヂ
6	1		(16) × (17) × 4	
7	3	石 鏡	31.5 × 15.5 × 9	
8	4	石 鏡	26 × 16 × 3	
9	2		(18.5) × (11) × 3	
10	4		19 × 12 × 4	
11	5		21.5 × 9 × 3	
12			(18) × (13) × 3	3号トレンヂ
13	4	石 鏡	(20.5) × (15) × 5	
14	5	石 鏡	23 × 11 × 7.5	
15	4		22 × 20 × 7	
16	5	石 鏡	20.5 × 11.5 × 4	
17		石 鏡	20 × 9 × 2	
18	5	石 匙	21 × 39.5 × 4	
19		石 棒	(235) × (101) × 99	縦×横×直径
20		砥 石	155 × 87 × 35	

番号	層	色調	特徴	胎土	口径高さ	
1	5	7.5YR	褐色	網代圧痕	金雲母 白色長石粒	35
		4/6				
2	4	5YR	赤褐色	土鏝		
		4/6				
3	5	7.5YR	褐色	網代圧痕	白色長石粒	86
		4/4				
4	4	7.5YR	褐色	土鏝		
		4/3				
5	4	7.5YR	にぶい褐色	網代圧痕	金雲母 白色長石粒	115
		5/4				
6		7.5YR	褐色	口縁部に横位沈線文	金雲母 白色長石粒	284
		4/4				
7	4	7.5YR	にぶい褐色	口縁部に刺突文	白色長石粒	160
		5/4				
8	1	7.5YR	褐色	網代圧痕	白色長石粒	72
		4/6				
9	表採	5YR	赤褐色		白色長石粒	
		4/6				
10	5	10YR	にぶい黄褐色		白色長石粒	90
		6/4				
11	4	10YR	明黄褐色	注口土器、注口部	白色長石粒	
		6/6				
12	1	10YR	黄褐色	網代圧痕	白色長石粒	114
		5/6				
13	4	7.5YR	明褐色	注口土器、注口部	金雲母 白色長石粒	
		5/6				
14	4	10YR	にぶい 黄褐色	突起口縁、両側に刺突文	金雲母 白色長石粒	
		6/4				
15	5	5YR	にぶい赤褐色	口縁部の隆帯文上に刺突文 縦方向に沈線文	白色長石粒	188
		5/4				
16	4	7.5YR	褐色	縦位二重沈線文	金雲母 白色長石粒	
		4/3				
17	4	7.5YR	にぶい褐色	縞杉文、沈線文	金雲母 白色長石粒	190
		5/4				
18	4	7.5YR	にぶい褐色	波状口縁	白色長石粒	220
		5/3				
19	4	5YR	にぶい赤褐色	口唇部に沈線文 口縁部に貫通文と刺突文	白色長石粒	260
		4/4				
20	2	7.5YR	にぶい褐色		白色長石粒	
		5/4				

番号	層	色 調	特 徴	胎 土	口径高さ	
21	5	7.5YR 5/4	にぶい褐色	口縁部に横位二重沈線文	白色長石粒	576 <sup>mm</sup>
22	4	7.5YR 6/4	にぶい橙色	網代圧痕、磨消縄文、粘土層による貼付文、その内側に刺突文	白色長石粒	
23	2	5 YR 5/4	にぶい赤褐色	折返口縁、磨消縄文、剝離部分あり	金 雲 母 白色長石粒	266
24	表採	5 YR 4/4	にぶい赤褐色		白色長石粒	
25	2	7.5YR 4/4	褐色	波状口縁、貫通孔	金 雲 母 白色長石粒	264
26	5	7.5YR 4/4	褐色	口縁頭頂部	金 雲 母 白色長石粒	120
27	4	7.5YR 4/3	褐色	磨消縄文	金 雲 母 白色長石粒	
28		7.5YR 4/3	褐色	口縁部に沈線文	金 雲 母 白色長石粒	246
29	2	5 YR 4/4	にぶい赤褐色	突起口縁、刺突文、櫛掻文	金 雲 母 白色長石粒	96
30	表採	5 YR 4/3	にぶい赤褐色	楕円状沈線文	金 雲 母 白色長石粒	
31	1	7.5YR 4/6	褐色	斜位羽状縄文、貼付文上に刺突文	金 雲 母 白色長石粒	
32	表採	7.5YR 5/6	明褐色	口縁頭頂部	白色長石粒	280
33	2	7.5YR 5/4	にぶい褐色	突起口縁、貫通孔と刺突文	白色長石粒	
34	4	7.5YR 4/3	褐色	綾杉文、縦位二重沈線文	金 雲 母 白色長石粒	
35	4	10YR 4/4	褐色	口唇部、口縁部に竹管文、磨消縄文	白色長石粒	344
36	4	7.5YR 4/3	褐色		金 雲 母 白色長石粒	
37	1	7.5YR 5/4	にぶい褐色	口縁部に楕円状隆帯文 その縁に刺突文、磨消縄文	白色長石粒	68
38	表採	7.5YR 5/6	明褐色	刺突文	金 雲 母 白色長石粒	394
39	5	7.5YR 5/4	にぶい褐色	磨消縄文上に沈線文 それに沿って刺突文	白色長石粒	68
40	4	7.5YR 4/4	褐色	口縁部に横位二重沈線文	金 雲 母 白色長石粒	594

番号	層	色 調	特 徴	胎 土	口径高さ	
41		7.5YR	にぶい褐色	波状口縁、内反する	金 雲 母 白色長石粒	158 <sup>mm</sup>
		5/4				
42	4	7.5YR	橙 色	磨消縄文	金 雲 母 白色長石粒	
		6/6				
43	5	10YR	明黄褐色	頸部に刺突文	白色長石粒	
		6/6				
44	2	7.5YR	にぶい褐色	注口土器、注口部	金 雲 母 白色長石粒	
		5/4				
45	4	7.5YR	明褐色	把手	金 雲 母 白色長石粒	
		5/6				
46	5	5 YR	にぶい赤褐色	折返口縁、J字状の隆帯文上に刺突文、内側に磨消縄文	白色長石粒	160
		5/4				
47	4	7.5YR	にぶい褐色		白色長石粒	160
		5/4				
48	4	7.5YR	褐色	口縁部に横位三重沈線文	金 雲 母 白色長石粒	204
		4/3				
49	4	5 YR	にぶい赤褐色	磨消縄文	金 雲 母 白色長石粒	
		5/4				
50	4	7.5YR	にぶい褐色	頸部に横位三重沈線文、斜位沈線文	金 雲 母 白色長石粒	
		5/4				
51	2	10YR	にぶい黄褐色	把手	金 雲 母 白色長石粒	
		5/4				
52	2	7.5YR	にぶい褐色	口縁部に粘土細による貼付文 羽状縄文	金 雲 母 白色長石粒	380
		5/4				
53	2	5 YR	明赤褐色	波状口縁、貫通孔から沈線文	白色長石粒	188
		5/6				
54	3	7.5YR	にぶい褐色	貼付文上刺突文、磨消縄文	白色長石粒	
		5/4				
55	4	7.5YR	褐色	口縁部に横位三重沈線文	金 雲 母 白色長石粒	260
		4/3				
56	2	5 YR	にぶい赤褐色	横位三重沈線文、隆帯文	金 雲 母 白色長石粒	152
		5/4				
57	5	5 YR	にぶい赤褐色	懸垂文、口唇部に刺突文	金 雲 母 白色長石粒	980
		5/4				
58	2	10YR	にぶい黄褐色	隆帯文	白色長石粒	
		5/4				
59	2	7.5YR	褐色	口縁部に平行沈線文 楯門状沈線文外側に羽状縄文	白色長石粒	290
		4/4				
60	4	7.5YR	褐色	口縁部に横位三重沈線文	金 雲 母 白色長石粒	146
		4/4				

番号	層	色 調	特 徴	胎 土	口径高さ	
61	5	10YR 5/4	にぶい黄褐色	縦位二重沈線文、斜位櫛描文	金 雲 母 白色長石粒	
62		7.5YR 5/4	にぶい褐色	口縁部に横位沈線文	金 雲 母 白色長石粒	154
63	2	7.5YR 4/4	褐色	「8」字状貼付文	金 雲 母 白色長石粒	234
64	4	7.5YR 4/4	褐色		金 雲 母 白色長石粒	
65	5	10YR 5/6	黄褐色	磨消縄文	白色長石粒	
66	5	7.5YR 5/4	にぶい褐色	縦位波状沈線文、縦位櫛描文 縦位の貼付文と沈線で区画	金 雲 母 白色長石粒	
67	5	5 YR 5/4	にぶい赤褐色	隆帯文により区画、その内側を縦位櫛描文、縦位波状沈線文	金 雲 母 白色長石粒	
68	4	5 YR 5/8	明赤褐色		白色長石粒 石 英	
69	5	5 YR 4/3	にぶい赤褐色	隆帯文により区画、その内側を縦位櫛描文、縦位波状沈線文	金 雲 母 白色長石粒	
70	5	7.5YR 4/4	褐色	隆帯文、櫛描文	金 雲 母 白色長石粒	348
71	5	7.5YR 5/6	明褐色	縦位波状沈線文、縦位櫛描文 縦位の貼付文と沈線で区画	金 雲 母 白色長石粒	
72	2	5 YR 5/4	にぶい赤褐色	網代圧痕	白色長石粒	122
73	1	7.5YR 5/4	にぶい褐色	磨消縄文	金 雲 母 白色長石粒	
74	5	7.5YR 4/3	褐色	隆帯文により5つに区画 その内側を縦位櫛描文	金 雲 母 白色長石粒	76
75	4	7.5YR 6/6	橙色	無文	金 雲 母 白色長石粒	
76	5	5 YR 4/6	赤褐色	隆帯文と沈線で区画、その内側を横位櫛描文、縦位波状沈線文、口縁部に横位沈線文	金 雲 母 白色長石粒	
77	4	5 YR 4/6	赤褐色	口縁部にロクロ指などで痕 底部、胴部にヘラなどで痕	白色長石粒	140 47 37
78				口縁部		



## 第4章 ま と め

今回の発掘では、残念ながら土層の攪乱が激しく遺構の発見はされなかったが、土器はプラスチックコンテナ11箱分と多量に検出されており、時期的にも縄文時代・平安時代の2つの時代が発見されている。

この遺跡の中心は、前回と今回の遺物の出土状況より、現在の西保保育所を西限とし、そこから南側の窪地にかけて広がっていたとおもわれる。

この地域には、様々な時代の遺跡があり近くには、小田野城があり、秩父街道の裏街道も通りその周辺には、同時代の遺跡もひろがっている。これらの時代のこともまだよくわかっておらず、今後の発掘によりこの地域の歴史を解明していきたいとおもう。

## 引用・参考文献

- |            |      |           |
|------------|------|-----------|
| 「牧丘町誌」     | 1980 | 牧丘町誌編集委員会 |
| 「古宿道の上遺跡」  | 1981 | 牧丘町教育委員会  |
| 「立石南遺跡」    | 1993 | 境川村教育委員会  |
| 「上野原小学校遺跡」 | 1993 | 上野原町教育委員会 |

## 報告書抄録

ふりがな	ふるやどみちうえいせき							
書名	古宿道上遺跡Ⅱ							
副書名								
巻次								
シリーズ名	牧丘町埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第2輯							
編著者名	大崎 文裕							
編集機関	牧丘町教育委員会							
所在地	〒404 山梨県東山梨郡牧丘町窪〒350 TEL. 0553-35-3111							
発行年月日	1994年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ふるやどみちうえいせき 古宿道上遺跡	ふるやどみちうえいせき 東山梨郡牧丘町 にしほも 西保下1942-3	09	010			19920915 ~1130	366	牧丘町営西保住宅 建設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
古宿道上遺跡	集落跡	縄文時代 中期～後期 平安時代中期	無	土器（深鉢・土鍾等） 石器（石匙・石鎌・石 棒等） 土器（坏）		1973年に発掘調査が行な われ、敷石住居が2件発 見されている。		

牧丘町埋蔵文化財調査報告 第2輯

## 古宿道上遺跡Ⅱ

印刷日 1994年3月25日

発行日 1994年3月31日

発行所 牧丘町教育委員会

〒404 山梨県東山梨郡牧丘町窪平350

☎0553-35-3111

印刷所 (株)エンドレス

〒405 山梨県山梨市上石森123

